

《担当者名》 高橋尚明 nao-takahashi@hoku-iryo-u.ac.jp、下村敦司、森元良太、入江一元

【概要】

解剖学特論で学んだ、臨床症状とその要因について、実際の解剖実習体を用いて三次元的に考察し、その臨床症状の予防方法や治療方法の検討などを具体的に学ぶ。また、各自が持つ臨床における疑問点について、解剖学的構造や機能解剖の視点を基に考察し、解決させる。

【学修目標】

リハビリテーション科学研究を実施するために、身体の構造と機能を解剖実習を通じて理解する。

1. 調査および考察を行う部位を、適切に剖出することができる。
2. 剖出した部位を基に、臨床症状の予防方法や治療方法を考察することができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 12	四肢と体幹 頭部および頸部	四肢・体幹を中心に、構造と機能との関連性について熟考させ、深化させる。 頭頸部の構造と機能との関連性について熟考させ、深化させる。	高橋尚明 下村敦司 森元良太 入江一元
13) 15	研究倫理 生と死の尊厳	人を対象とする医学・生命科学に関する倫理の考え方を熟考し、理解を深める。 安楽死をめぐる倫理的な議論を通して、生と死の尊厳を熟考し、理解を深める。	高橋尚明 下村敦司 森元良太 入江一元

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

解剖実習への参加状況、実習後に課すレポートによって評価する。（レポート100％）

【教科書】

特に指定せず、授業内容や課題内容に応じて必要な資料を推薦または指定する。

【参考書】

坂井建雄 著 「解剖実習カラーテキスト」 医学書院 2013年

寺田春水 他 著 「解剖実習のてびき」 南山堂 2004年

【学修の準備】

授業内容について、事前に紹介する書籍や文献等を活用して予習を行うことまた、紹介する文献以外にも関連分野の文献等を各自調査し予習を行うこと（約120分）。

授業後は、授業資料や授業時に紹介した書籍や文献等を基に学習を深めること（80分）。